

【クレーム情報】

ボンディング加工樹脂のシミ出し

外観上は特に変わったことのない普通の製品に見えるが、実はボンディング加工した生地を使っていた、というような製品が増えている。ボンディング加工の製品であることが分かれば、クリーニングによる様々な変化の可能性を事前に説明できるが、それが分からないためにトラブルが発生することもある。今回は、そうした事例を紹介する。

原因

ボンディング加工に使った接着樹脂が、着用による汗汚れや空気中の水分などによる作用を受けて経時劣化したところに、テトラクロロエチレンによるドライクリーニングを行ったため、樹脂がシミ出したもの。

生地全体にボンディング加工布が用いられているため、コート全体的に樹脂のシミ出しが生じているが、特に上衿のシミ出しが著しい。ロッド違いなどで、上衿の生地に使われている接着樹脂に劣化が進みやすい要因があった可能性が考えられる。

ボンディング加工とは

布と布を貼り合わせる加工法。ボンディング加工が開発された初期の接着剤には、酢酸ビニル、エチレン酢酸ビニル共重合体、アクリル系などの樹脂が使用されていたが、現在はポリウレタンが主体となっている。

事故の防止対策

取扱い絵表示では、テトラクロロエチレンでのドライクリーニングが可となっているが、ボンディング加工製品については、石油系溶剤によるドライクリーニングを原則とすること。

現品の場合は、外観からの判別は困難だが、組成表示にはポリウレタンを使っていることが明示されていてボンディング加工であることが推定できるようになっている。ただし、ボンディング加工に使用される接着剤の経時劣化は避けることができず、石油系溶剤でのドライクリーニングでも剥離やシミ出しが発生する可能性があることなど、利用者への事前説明が必要。

事故防止システムで検索

日本繊維製品・クリーニング協議会が運営する「クリーニング事故防止システム」でボンディング加工布の事故を検索すると73件の事故情報が確認できる（2月25日現在）。

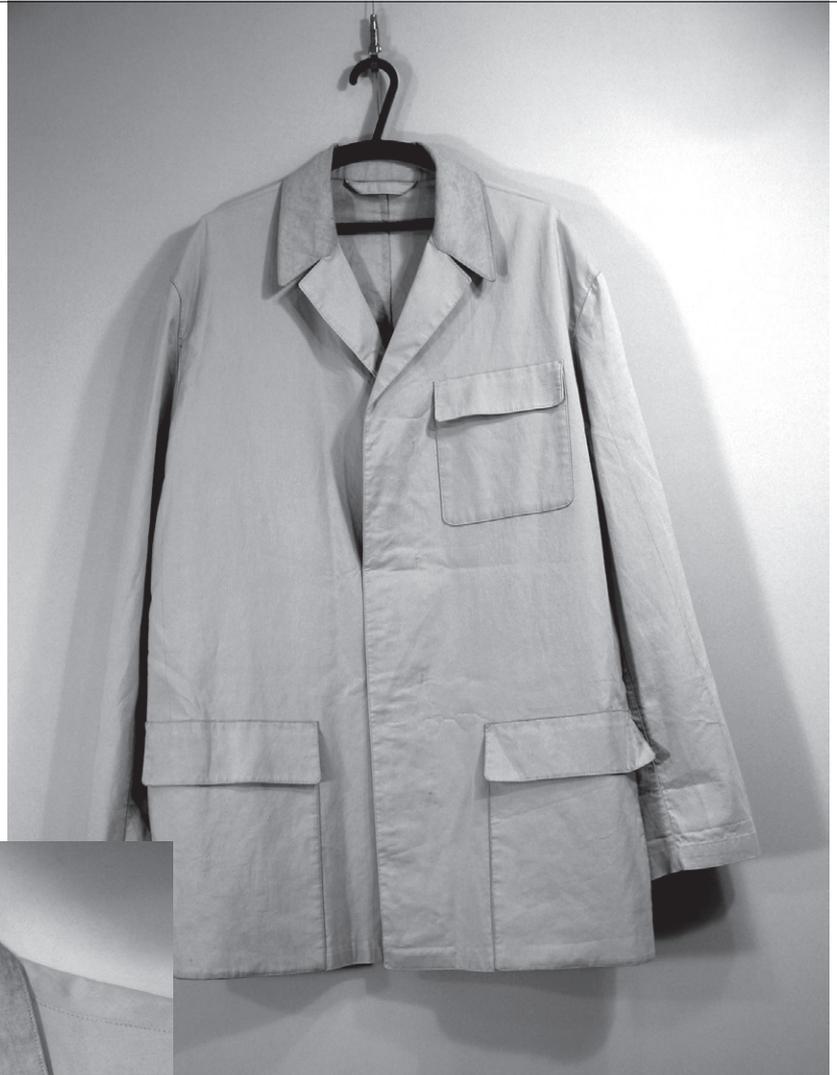
品目別ではコートが圧倒的に多く、73件中51件がコートでの事故となっている。

クリーニングでの取扱いを見ると、石油系溶剤でのドライクリーニングが48件、テトラクロロエチレンでのドライクリーニングが6件、水洗処理が9件となっているほか、「洗ってはいない」としているものが4件登録されている（残る6件はドライクリーニングで使用した溶剤が不明のもの）。

先月号で紹介したコーティング加工と同様、接着に使用している樹脂の劣化は、クリーニングに関係なく発生する。

事故防止システムの利用には、日本繊維製品・クリーニング協議会への入会が必要です。詳細は、日本繊維製品・クリーニング協議会事務局にお問い合わせください。

TEL 03 (5362) 7201



コートの上衿まわりに、黒く濡れたようなシミが目立って発生している。触るとしっとりとしたような感触で、ボンディング加工の樹脂がシミ出したもの。樹脂の劣化は自然発生的なもので避けられないが、水分や汗、紫外線などの作用で劣化が促進することがある。

- 品名…コート
- 素材…綿63%、ポリウレタン37%

■取扱い絵表示



- 処理方法…テトラクロロエチレンによるドライクリーニング、洗浄時間5分。
- 事故の状態…コート全体に樹脂のシミ出しが生じているが、特に、上衿まわりに黒く濡れたような状態のシミが目立って発生している。購入した年月や着用状況などについては確認できない。